

覚法山 かくほうざん
さいしやう
さいし
じ
最勝寺



本堂外観



本堂内陣

最勝寺の開基住職・中川覚正師は香川県生まれ、真宗興正派の僧侶でありました。興正派本山よりご絵像一幅を託されて中国・山東省に渡り、満州鉄道の社員を中心に布教・伝道に従事、帰国後の大正十三年に同郷の埼玉県知事・細川長平氏の支援によって、浦和仲町で説教所を起こしました。月三〜四回の法座は、この頃からずっと続いています。

その後多くの御同行の願いにより、同地に四週四面の本堂と庫裏が建立されたのは昭和六年、昭和二十六年に第二代住職・宣正師が本派で得度・昭和二十八年に住職継職するのを機に、正式に浄土真宗本願寺派に転派しました。

ました。



最勝寺発祥の地。現在は茶室「如是庵」

ところで、当時は法座を通じて御縁ができて、墓地を求めて他宗に転宗する家庭が少なくありませんでした。そこで子々孫々々々でみ教えが相続されるようにと、現在の緑区大牧で墓地開墾に着手、雑木林だった土地を、住職が一本一本木を切り拓いて踏み固め、一年半をかけて造成し、昭和四十二年

には墓地に隣接する礼拝堂も完成しました。

やがて仲町の本堂が手狭になり、昭和四十八年に浦和岸町に寺基を移して今にいたっています。

現在、年五回の法要と月三回の定例法座のほか、仏婦と仏壮はそれぞれ月一回の例会を行っております。また、四十年以上前から婦人会や法座に集まった方が仏教讃歌を一曲ずつ覚え、『讃歌の友』というコーラスグループになりました。



毎年恒例の婦人会の感謝会のように

方にも知っていたために、埼玉県合唱連盟に加盟し、毎年合唱祭の舞台で歌っていますが、このことは会員の皆さんの励みにもなっています。仲町の御堂跡には総代・ご門徒のすすめで、茶室『如是庵』を建立しました。先住職が生まれた昭和六年に植えた銀杏の木は、今もその敷地内に遺されています。

最勝寺は私で三代目、私たちを取り巻く環境は日々刻々と変わり、そのスピードはめまぐるしいものがあります。時代に即応した変化はお寺にも求められています。そんなことがあっても変わらないものがあります。それは仏法であり、人間の根源的な苦悩であります。この基本にいつも立ち返りながら、丁寧にと人と接することをこころがけ、法を聴き、伝えていくことこそ、先人のご苦労や真摯に法を求めたご門徒の皆さまに報いる道ではないかと、思うことです。